

The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院スクールモットー

「地の塩、世の光」

マタイによる福音書 第5章 13～16節より

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

高等部の教育目標

1. 礼拝と聖書の学びを通して、真実を求める心を培い、神や人生について深く考え、人を愛し人に奉仕する人間の育成に努める。
 2. 教科の学習を通して、総合的判断力・洞察力を持ち、自分の人生の進路を切り拓く力をもつ人間の育成に努める。
 3. 学校の諸活動を通して、集団の中で自分の果たすべき役割を知り、それを実行できる人間の育成に努める。
 4. 国際的な視野に立って将来の社会に責任を負うことのできる人間の育成に努める。
- この教育目標のもとに、さらに各教科の教育目標ができております。



高等部南校舎：1952（昭和27）年



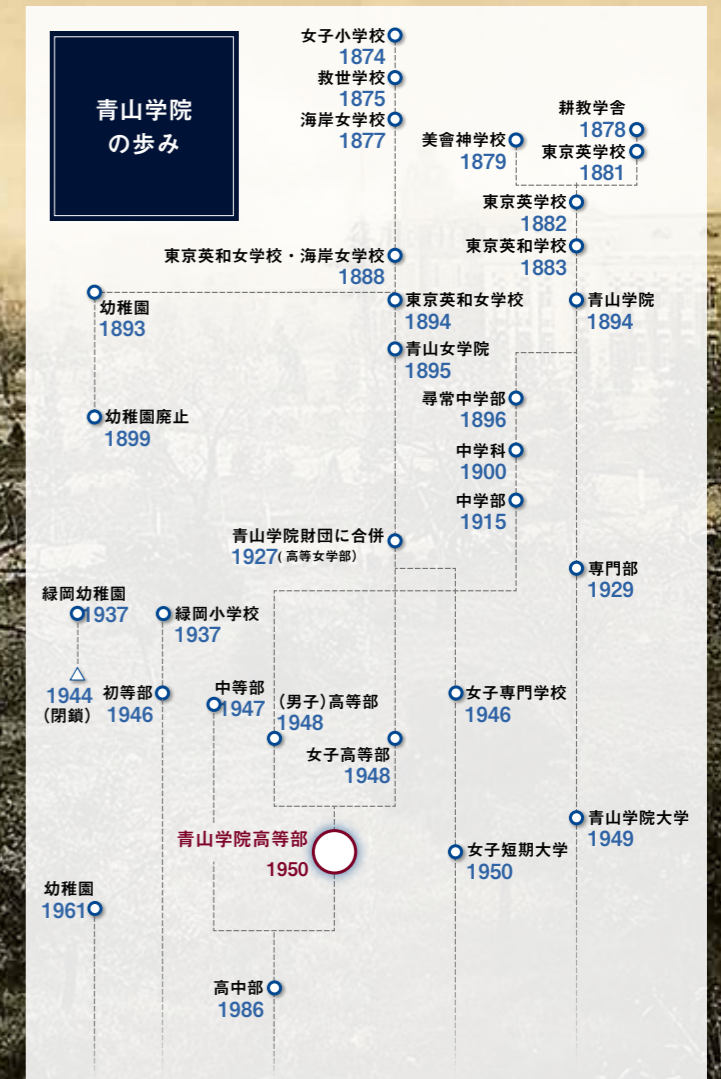
高等女学部のプラット記念講堂（旧PS講堂）



教場の授業風景（高等女学部）



1921（大正10）年頃の青山キャンパス



青山学院は1947年に新制の中等部を開設しました。また、1948年にそれまでの中等教育機関を改称して（男子）高等部、女子高等部とし、1950年に二つを合同して男女共学の青山学院高等部を開設いたしました。その後、1986年から中等部と高等部の連携を強化するために両者を併せて高中部と呼んでおります。



contents

- 1 青山学院教育方針・高等部の教育目標・青山学院の歩み
- 3 目次
- 4 **Rejoice Always**
いつも喜んでいなさい。
青山学院高等部 部長 ごあいさつ
- 5 **国際社会に対応する道しるべを**
スーパー グローバル ハイスクールとしての取り組み
- 7 **豊かな人間形成をめざして**
特色ある教育
 - 7 キリスト教教育
 - 8 国際交流
 - 9 「平和・共生」への取り組み
 - 10 大学との連携
- 11 **各自の関心に応じて、深く学ぶ。**
教科学習
- 14 特色ある選択科目
- 15 **思い出は自分たちの手で**
年間行事
- 17 **自主性を重視し、責任ある行動を促す。**
生徒会・ホームルーム
- 19 **仲間とともに、目標へ向かう。**
クラブ活動
- 21 **充実した施設・設備と、
明るく安らぎのある空間。**
校内施設
- 23 **卒業生の80%が
青山学院大学および短期大学へ進学。**
卒業生の進路
- 25 特集 輝く先輩方からのメッセージ
- 27 入試情報
- 29 入試Q & A



Rejoice Always

いつも喜んでいなさい。

青山学院高等部 部長

渡辺 健



みなさん、こんにちは。青山学院高等部スクールガイドを手にとっていただき、ありがとうございます。

冒頭の“Rejoice Always”は新約聖書の言葉ですが、みなさんはいつも喜んでいますか。

青山学院高等部は、いつも喜びが溢れる学校でありたいと願っています。学習において、クラブにおいて、行事において、そして何よりも仲間や教員との関係において。それは、人との絆が深まったり、人に貢献できたりした時の喜びこそが、もっとも深い喜びの一つであると信じるからです。

青山学院のスクールモットーは“地の塩・世の光”です。これは、イエス・キリストの教えです。「塩」は味付けに欠かせないものであると同時に防腐剤でもあります。「光」は、闇の中で道を照らします。この言葉は、世の中によい味を付け、荒廃を防ぎ、世が闇に包まれていても希望の光を与えていく、そのような人物像を指し示しています。一人ひとりが神に愛されている存在であり、それぞれが賜物を与えられ生かされているということを知り、その賜物を生かし、人々や社会に貢献できる人間になってほしいという願いがこめられています。このモットーを基盤に、スーパーグローバルハイスクールとしてのキーワードも“多様性の受容”と“サーバント・マインド”とし、「自分と異なる人を受け入れる包容力」や「人に仕える心」を育むことを大切にしています。

このスクールガイドをご覧になるとわかるように、この学校には普段の学びの他にもさまざまなプログラムが用意されています。ぜひ自分の意志をもって挑戦してみてください。そしてその中で、人との関わりにおいて大切なことは何か、ということをいつも意識してみてください。たとえば、英語力がついたり、留学生と話ができたりすることは大きな喜びとなるでしょう。しかしながら長い目で見れば、最も大切なのは「ただ英語を話すことができる」「国際社会で活躍できる」ということではない、ということに気づいてください。みなさんには、「グローバル社会で成功する」という夢より、世の中で本当に大切なことは何かという視点を常に心の中心において、「グローバル社会に貢献する」という思いをもって行動できる人になってほしいと願っています。

高等部に入学した皆さんの生活が喜びで満ち溢れることを祈っています。